

【鈍川】

おに
はら

②6 落合橋



落合橋は、昭和12年8月に竣工した鉄筋コンクリート造りの開腹アーチ橋。全長は27.5m、幅は2.8m。



開腹というのは、

アーチの側面をくりぬいて意匠をこらした造りのこと。これに対して、側面が壁になっているものを充腹アーチと言う。

川に下りて下から落合橋を眺めると、そのレトロな美しさに感動する。

長谷地区と鬼原地区を結ぶ生活橋として造られ、広い県道ができるまでは多くの交通量があった。

今では、利用する人も少ないが、現役の橋として存在感を示している。

いつまでもこの形で残していければと願う。

②7 蒼社川と玉川の合流地点 (長谷発電所取水堰跡)



落合橋の少し上流に蒼社川と玉川の合流するところ(地名／落合)があり、ここで水量が一気に増す。

この場所に、1km下流の長谷発電所へ水を送るための取水口が設けられていた。2つの川が合流するため、水が涵れる心配が少なかった。

今も石垣とコンクリートで造られた堰の遺構が残されていて、絶えることなく水が流れている。水路の遺構も左岸沿いに一部見られ、落合橋の橋脚は水路跡に建つ。長谷発電所は、明治40年に竣工した今治で最初の水力発電所。今も長谷の三島神社の境内にその遺構がある。

(P.46参照)